MUSEUM EYES

ミュージアム・アイズ

Vol. 48

2007Spring

MEIJI UNIVERSITY MUSEUM

大阪府塚原古墳群の石室に立つガウランド（明治時代）
造幣局を指導する技師として来日したガウランドは、現在は破壊されてしまったものも含め、数多くの日本の古墳を近代的な手法で調査しました。春季特別展では、彼が残した貴重な写真や記録を通して、日本の古墳研究の原点を探ります。（2頁）

特集

春季特別展 ガウランド 日本考古学の父

◆後藤和雄さんに聞く －ガウランドコレクションとの出会いとその魅力
◆内藤家文書近代史料の第一次調査が終了
◆延岡市で「掘り出された＜子ども＞の歴史」の授業実施
◆収蔵室から　坂本万七コレクション
◆M2カタログ
◆来た・見た・聞いた明治大学博物館
◆博物館友の会から

明治大学博物館

特集

ガウランド

明治大学博物館2007年度春季特別展

日本考古学の父

2007. 5/19（土）～7/1（日）

会　　場：明治大学博物館特別展示室（明治大学アカデミーコモン地下1階）
主　　催：明治大学博物館・明治大学考古学研究室
入 場 料：**明治大学学生・教職員は無料**
（明治大学リバティ・アカデミー会員、明大カード会員、明治大学博物館友の会会員、高校生以下の生徒・児童、愛の手帳・身体障害者手帳をお持ちの方は身分証・手帳の提示で無料）
一般…300円

明治時代初期、造幣局技師として来日した1人のイギリス人がいました。その名はウイリアム・ガウランド。彼は職務の傍ら、日本各地の古墳を調査して数多くの写真と精密な記録をとり、その後の古墳研究の原点ともいえる業績を残しました。

このたび、ガウランドが撮影した写真と資料の研究に携わった後藤和雄氏から、明治大学博物館にこの貴重な写真の複写が寄託されることとなったのを記念し、後藤氏と共同研究者のヴィクター・ハリス氏の研究に基づいて、ガウランドとその古墳研究をテーマとする特別展を開催します。約70点の写真と資料から、100年前の日本の風景と研究の視点を感じとっていただければ幸いです。

明治時代の古墳の姿

ガウランドは、天皇の墓と考えられる「陵墓」に強い関心を示しており、数多くの写真を残しています。陵墓に指定された古墳に入ることができなくなったのは明治期以降で、撮影された当時はまだ出入りが自由な古墳もありました。なかには人が住んでいた様子がよくわかる陵墓参考地指定前の河内大塚山古墳の写真などもあります。現在の私たちにとって、古墳は緑生い茂る山、あるいは丘というイメージが強くありますが、当時の人々は、また違った認識を持っていたのではないでしょうか。

←大阪府大仙（伝仁徳天皇陵）古墳
日本最大の前方後円墳ですが、現在は周辺が宅地化され、このように地上から全体を写すことはできません。当時は人が入ることができたためか大きな樹木がなく、古墳の形がよくわかります。うっそうとした森のような現在の外観とは大きく異なっています。

失われた古墳

明治期以降現代に続く近代化に伴う土地開発は、膨大な数の古墳を破壊しました。記録を取らないまま消えた古墳などは、存在した証拠すら残りません。ガウランドが撮影した古墳には、そのような今となっては写真の中でしか知ることのできない古墳も残されています。消えた古墳にとっては、写真のみが研究の最後の手がかりとなるのです。

大阪府長持山古墳→
戦後に破壊され、現在は写真に写っている石棺（石製の棺）のみが残されています。撮影したガウランド本人は、後にこの古墳がなくなるとは想像もしていなかったはずですが、この写真が残されていたことで、棺の埋め方や配置など多くの情報を得ることができました。

ガウランドが見た古墳文化

ガウランドは古墳そのものだけではなく、古墳から出土した埴輪や馬具、弥生時代の青銅器などのモノ資料（考古学では遺物と呼びます）も熱心に研究していました。帝室博物館（現東京国立博物館）の収蔵資料や、各地の遺跡から出土した遺物を撮影し、また帰国時にイギリスへ持ち帰っています。持ち帰られた資料はガウランドコレクションとして大英博物館に一括収蔵されており、梅原末治氏や大塚初重氏など日本人の研究者によって調査が行われています。ガウランドが撮影した遺物のなかには現存しているものがあり、今回の特別展では、そうした資料も展示する予定です。ガウランドが実際に見たものと同じ遺物を、100年後のみなさんの目でぜひ観察してみてください。レンズを通したガウランド視点と比べることで、古墳研究の原点の一端を感じることができるはずです。

↑金銅装の剣菱形杏葉（馬具）
ガウランドは勾玉などの装飾品から銅鐸や陶棺など大型の資料まで実に様々な遺物を持ち帰っています。中でも、大阪府芝山古墳で発掘調査した際の一括資料は、出土地点を記録した図面も残されている重要なものです。

↑岡山県本坊山古墳出土の人物埴輪（写真右）
このほか、埼玉県中条村出土の馬形埴輪（国指定重要文化財）など、10件余りが現在東京国立博物館に収蔵されています。

［参考・引用文献］ヴィクター・ハリス／後藤和雄2003『ガウランド日本考古学の父』朝日新聞社

関連イベント

1. 開幕記念特別講演会
ガウランド　その人物と生涯（仮題）

考古学・冶金学・登山…
明治初期の日本の発展に尽くした一人のイギリス人技師

政府のお雇い外国人としてのため来日したガウランドは誠実な人柄と指導で人々に慕われ、滞在は異例ともいえる16年の長期にわたりました。造幣局での貢献だけではなく、職務以外でも古墳の精密な調査や日本アルプス命名など、日本登山史にも大きな足跡を残しました。帰国後もストーン・ヘンジの調査を手がけるなど、彼の研究への情熱は尽きることがありませんでした。アーネスト・サトウをはじめとする当時日本に駐在した外国人との交流を含め、ガウランドの人物像とその多彩な生涯を浮き彫りにします。

講師：ヴィクター・ハリス氏（元大英博物館日本部長）
※講演は日本語で行います。

日時：2007年5月18日（金）15:00～16:30
※当日は14時よりオープニング・セレモニー及び内覧会を行います。
詳しくは、博物館事務室までお問い合わせ下さい。

会　　場：明治大学アカデミーコモン2階会議室
定　　員：200名（要申し込み）
受 講 料：無料
申し込み・問い合わせ先：明治大学博物館事務室　03-3296-4448

2. リバティ・アカデミー第41回博物館公開講座「考古学ゼミナール」
ガウランドと日本の古墳研究

日本考古学の父
ウイリアム・ガウランドが残した研究の遺産

日本における古墳研究の基礎を築いた彼の功績と、残された記録や資料を通して日本の古墳研究の原点を探ります。

講　　師：白石　太一郎氏（奈良大学教授）
後藤　和雄氏（元朝日新聞編集委員）
佐々木　憲一氏（明治大学文学部助教授）
大塚　初重氏（明治大学名誉教授）

回　　数：全4回（15日を除く6月の毎週金曜日18:00より開催）
会　　場：アカデミーホール（明治大学アカデミーコモン3階）
定　　員：200名
受 講 料：4,400円（リバティ・アカデミー会員でない方は入会金3,000円が必要です）
申し込み・問い合わせ先：明治大学リバティ・アカデミー事務局
03-3296-4423

◆◆◆博物館の活動に参加してみましょう!!◆◆◆
特別展 学生ボランティア（受付・展示解説）・リバティ・アカデミー会員ボランティア（受付）　募集中!
詳細は明治大学博物館事務室までお問い合わせ下さい　TEL 03-3296-4448

後藤 和雄さんにきく

ガウランド・コレクションとの出会いとその魅力

今回の春季特別展は、ガウランドが撮影した貴重な写真の複写を、学術資源として保存・整理し、有効活用してほしいという後藤和雄さんの強い願いが出発点となりました。ガウランドが撮影した写真（以下ガウランド写真と略す）の研究を手がけ、複写の所蔵者である後藤さんに、資料との出会いと魅力について伺いました。

後藤　和雄　ごとう・かずお
1936年東京生まれ。朝日新聞写真部長、編集委員を歴任する傍ら、日本や世界各地に残された江戸・明治期の写真を研究し、「写真考古学」の第一人者とされる。ガウランド研究に取り組む過程で、明治大学名誉教授大塚初重氏に師事した。主な著書に『甦る幕末』（朝日新聞社）、元大英博物館日本部長のヴィクター・ハリス氏との共著に、今回の展示の主題となった『ガウランド　日本考古学の父』（朝日新聞社）がある。

Interview

―ガウランド写真と出会ったきっかけは？

朝日新聞社在籍時の1986年から国内や海外に残された日本の古い写真の調査と研究を手がけました。同年にオランダのライデン大学で600枚を超える幕末期の写真を再発見したのは成果の一つで、『甦る幕末』という展覧会にもなりました。ガウランドと出合ったのは、イギリスにも古い写真が残っているのではないかと調査をし始めたのがきっかけです。まずは大英博物館を調べようと、知人から紹介されたのが、当時日本部の研究員だったヴィクター・ハリス氏（→MUSEUM EYES vol.41参照）で、彼が「考古学が好きな人が撮った古い日本の写真がある」というのでほこりをかぶった木箱を開け、中のガラス乾板を調べたところ、ガウランドの写真だったというわけです。木箱には何も記されておらず、当初は誰が撮ったのかもわからない状態でした。写っている古墳や資料を手がかりに各地で調査を重ねた結果、ガウランドが写した写真だということが判明しました。改めて貴重なものだとわかった瞬間の感動は今でも忘れられません。

そして、ハリス氏とともに写真も含めたガウランド・コレクションの共同研究プロジェクトを立ち上げ、私も大英博物館の特別研究員として本格的な調査を行うことになったのです。

―撮影には相当な苦労があったと伺いましたが。

調査の第一歩は写真や古墳の図面、土器などのコレクションの撮影でしたが、大英博物館の収蔵庫は、鍵のかかったいくつもの扉の向こうにあるうえ、ハリス氏の立会いも必要で、一度入るとそう簡単には出ることができません。何より調査期間が限られていましたから、時間も惜しい。しかも、小さな勾玉から巨大な銅鐸まで大きさがバラバラなものが収蔵場所順にランダムに運ばれてくるため、セッティングがその都度変わり、撮影にとても時間がかかりました。それこそ、食事やトイレも我慢して1日中収蔵庫の中で撮影を続けたのです。若く体力があるうちだったので、できたことだと思います。

―来場された方にこれはぜひ見てもらいたいという1枚と、ガウランド写真の魅力を教えてください。

1枚だけ選ぶというのは難しいですね（笑）。これらの写真が貴重なのは、長持山古墳など、その後破壊されて現在は残っていない古墳の姿が数多く収められているという点です。当時は、その古墳がなくなると思って撮影していたわけではないですからね。その中でも、しいて1枚挙げるとすれば、やはり塚原古墳群の石室に立つガウランドでしょうか（編集注：表紙写真）。人物が写っている点がガウランド写真の重要性のひとつですが、この写真には彼が調査した古墳と彼自身が写っていて、まるでガウランドの人となりが伝わってくるかのようです。

また、ガウランド写真の最も大きな魅力は、古墳の今昔対比ができる点です。ガウランドが撮影した仁徳天皇陵を見てください（2頁左上）。現在の姿とかなり異なっています。当時の撮影ポイントに近い地点から撮影することで定点観察が可能になり、古墳の姿の移り変わりがわかるのです。各時代の古墳の姿を伝えていくことも、文化の継承です。何もしなければ情景は失われていってしまいますから、写真に残すことで、はじめて記録が可能になりますね。そういう意味で、非常に重要であると思います。

―ありがとうございました。

（聞き手：忽那敬三）

内藤家文書近代史料 第一次調査が終了しました!!

2005年5月に始まった内藤家文書近代史料の第一次調査が2006年11月に終了しました。

文学部史学地理学科日本史専攻落合弘樹助教授の指導を受けながら、明治・大正期の手紙や帳簿を学生達が1点ずつ読み解き、内容を記録していきました。初めの頃はミミズの這った様な字で書かれた古文書を読むのに四苦八苦していた学生達ですが、教え合いながらこつこつと読み進め、今ではかなり古文書が読める様になりました。長期休暇の際に行われた集中調査では、活躍中の日本史研究者にもご参加いただき、大きな刺激を受ける事もできました。調査には28名が参加し、整理した文書の数は2072点に上ります。

大量の手紙の束。調査開始時、こんな箱が10箱以上ありました。

1点ずつ史料番号を与えて、中性紙の封筒に入れて、内容を読んで‥‥地道な作業が続きます。

第3回集中調査で第一次調査の整理終了のめどが付き、記念写真を撮りました。この後、記録類の整理を行って11月に完全に調査が終了しました。

＊調査の詳細は「『内藤家文書近代史料』の調査にあたって」（『明治大学博物館研究報告』11号）をご参照ください。
現在は、内藤家文書近代史料の第二次調査を行っています。

延岡市でアウトリーチ活動を行いました

2007年1月30・31日に、考古部門忽那学芸員が宮崎県延岡市を訪問し、市内の小学校でアウトリーチ活動の一環として特別授業を行いました。30日は南方小学校、31日は一ヶ岡小学校で6年生を対象に、2006年度の特別展「掘り出された＜子ども＞の歴史」に出展した明治大学博物館所蔵の資料を実際に手にとってもらいながら、考古学から見た昔の子どもの様子について勉強しました。

授業を受けた児童から寄せられた感想文には、「ぼくはあまり歴史は好きではありません。でも今日の話はおもしろく、少し興味が持てました。」というものや、出産時に亡くなった母親や昔の子どもの死亡率の高さを知り、「昔の子どもは生きるのが難しかったと知って、ひとつしかないこの命を大切にしようと思いました。」等の意見があり、子どもたちの心に残る授業となったようです。

（写真提供：株式会社夕刊デイリー新聞社）

収蔵室から

坂本 万七 コレクション

坂本万七という写真家をご存知でしょうか?
写真家・坂本万七は1900年に広島県深安郡福山町(現在は福山市)で織物問屋の次男として誕生しました。1915年に広島県にある盈進商業学校に入学しますが、4年後に中退し、武者小路実篤が中心となって宮崎県日向市に開いた「新しき村」に参加します。しかし1921年には上京し、写真家への道を歩みだします。その年に品川写真研究所に入り、その後三笠写真館に移り、修行を積んでいきます。そして、国際文化振興会、大日本航空本部、美術研究所(現・東京国立文化財研究所美術部)それぞれの嘱託を経て、桃源社坂本写真場を1926年に開きました。

坂本万七の写真は、芸術性と学術的資料性を兼ね備えた作品として高く評価されています。築地小劇場での新劇の舞台写真や仏像、考古遺物、現代絵画、彫刻、工芸、戦前の沖縄の風俗や風景など様々なジャンルの写真を残しています。

桃源社坂本写真場を開いてから33年後の1959年に、坂本万七写真研究所が設立されました。その後、坂本万七の息子である坂本明美氏が研究所を継ぎますが、2005年1月に閉鎖されました。その間、親子2代、約80年にわたり撮影された貴重かつ膨大な写真の一部が、2004年度に坂本明美氏の母校である明治大学に寄贈されました。ネガ約13,000点、スライド約30,000点、それぞれを紙焼きにしたファイルが数十冊、資料は数万点にのぼります。

寄贈された写真の中に、明治大学博物館が所蔵する考古資料の写真も含まれていました。写真は、左から群馬県岩宿遺跡出土の磨製石斧と打製石斧(国指定重要文化財)、栃木県篠山貝塚出土の深鉢形土器、青森県砂沢遺跡出土の台付鉢形土器、茨城県舟塚古墳出土の家形埴輪のスライドです。今回紹介した資料は常設展示室に展示されています。ミュージアムアイズを片手に「美術写真の第一人者」といわれる写真家の撮影したものと、展示されているものを見比べてみるのも楽しいかもしれませんね。

(佐藤　紘子)

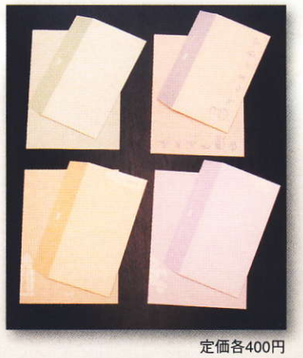
M2カタログ

M2 グッズ　**ミュージアムショップ「エムツー」で販売しているグッズを紹介するこのコーナー。第9弾はレターセットをご紹介します。**

明治大学博物館が所蔵している資料「ニュルンベルクの鉄の処女(アイアンメイデン)」、「十手」、「土器」、「土偶」がそれぞれデザインされたオリジナルのレターセット。もちろん売っているのはここだけです。来館された記念に、博物館の感想をこれに書いて、お友達に送ってみてはいかが?

売り上げBEST3
(2006年12月～2007年2月)

1位	『常設展示案内ガイドブック』	800円
2位	ポストカード「ニュルンベルクの鉄の処女」	90円
3位	土偶キーホルダー(黒耀石体験ミュージアムグッズ)	350円



定価各400円

来た・見た・聞いた明治大学博物館

メディア掲載一覧

資料写真掲載

○資料掲載【群馬県岩宿遺跡出土岩宿Ⅰ石器文化敲打器】【埼玉県砂川遺跡A地点出土ナイフ形石器】▶写真
【神奈川県月見野Ⅰ遺跡出土槍先形尖頭器】【長野県矢出川Ⅰ遺跡出土細石器】
『スーパー図解雑学日本史』　ナツメ社
○資料掲載【制剛流捕縛術口伝】
朝日ビジュアルシリーズ「週刊 藤沢周平の世界」第20号　朝日新聞社
○資料掲載【高札　徒党逃散禁制】【鑑札　株仲間札】
『週刊日本の100人　64号　田沼意次』　デアゴスティーニ・ジャパン
○資料掲載【内藤家文書　「神文」(六本木御三方様本〆神文)】
「国学院大学21世紀COEプログラム総合報告書」　国学院大学21世紀COEプログラム
○資料掲載【上野国安中城絵図】
『史料で読みとく群馬の歴史』　山川出版社
○資料掲載【登呂遺蹟調査後援会設立趣意書　他】
平成18年度『板橋区立郷土資料館紀要』第16号　板橋区立郷土資料館
○資料掲載【「海老責の図」(『徳川幕府刑事図譜』)】
加来耕三『時代考証事典』　ナツメ社
○資料掲載【広島県帝釈峡寄倉岩陰遺跡発掘調査風景】【広島県帝釈峡寄倉岩陰遺跡出土石剣柄頭】【広島県帝釈峡寄倉岩陰遺跡出土1号人骨群】【広島県帝釈峡寄倉岩陰遺跡出土2号人骨群】
河瀬正利『中国山地の縄文人・帝釈峡遺跡群』　新泉社
○資料掲載【群馬県岩宿遺跡遺物写真】
「日本考古学協会第2回公開講座パンフレット」　日本考古学協会

●資料放映【会津若松戦争之図】
「細木数子VS日本の歴史　これがホントの話よ!」　テレビ朝日　2007年1月6日
●資料放映【今川仮名目録】
「大人の教科書　日本史編」　フジテレビ　2007年1月3日
●資料放映【禁中並公家諸法度】
「超歴史ミステリーロマン3　大奥Ⅱ」　テレビ東京　2006年12月26日
●資料放映【「御触書」　寛政十年】
「NHKスペシャル　喜多川歌麿(仮)」　NHK総合テレビ　2007年3月4日
●資料放映【「引廻しの図」(『徳川幕府刑事図譜』)】
「タモリ倶楽部」　テレビ朝日　2007年2月2日

埼玉県砂川遺跡A地点出土ナイフ形石器

館紹介等の取材・撮影・掲載
(雑誌・ラジオ・ウェブサイト)

◇掲載【「掘り出された<子ども>の歴史」紹介】
「子どもの文化」2007年1月号　子どもの文化ホットライブ　財団法人文民教育協会　子どもの文化研究所
◇掲載【明治大学博物館紹介】
「東京ベストガイド」　成美堂出版
◇掲載【「掘り出された<子ども>の歴史」紹介】
「チャイルド・サイエンス」VOL.3　「日本子ども学会」事務局
◇掲載【明治大学博物館紹介】
ウェブサイト「カルカンマガジン　猫の街案内」(http://www.kalkan.jp/)　マスターフーズリミテッド
◇掲載【明治大学博物館紹介】
「るるぶ東京遊び場ベストセレクト」　JTBパブリッシング
◇掲載【明治大学博物館紹介】
ウェブサイト「47NEWS　ちっちゃなミュージアム」(http://www.47news.jp/)　共同通信社
◇掲載【明治大学博物館紹介】
「東京　明治・大正・昭和散歩」　成美堂出版
◇掲載【明治大学博物館紹介】
「College Road」夏特別号　旺文社
◇掲載【明治大学博物館紹介】
「新ぴあmap首都圏版2007-2008」　ぴあ
◇放送【明治大学博物館紹介】
「マニアの叫び」　テレビ東京
◇掲載【明治大学博物館　刑事部門紹介】
「men's egg」4月号　大洋図書
◇放送【明治大学博物館　刑事部門紹介】
「桜塚ヤンキース」　テレビ埼玉

団体見学の記録　2006年12月～2007年2月

【一般】	千葉市立加曽利貝塚博物館友の会(25名)・東京を歩く会(40名)・さいたま市小さな旅クラブ(13名)・調布市民大学(11名)・読売・日本テレビ文化センター　錦糸町(17名)・山手線沿線私立大学コンソーシアム研修会(6名)・C2サザン会(16名)・栃木県教育委員会事務局安足教育事務所(12名)・明治大学同窓生(9名)・小平市中央公民館主催シルバー大学31期生(60名)・マルシェモア(32名)・鹿島建設研修会(18名)
【小・中学校】	お茶の水女子大学附属中学校(11名)・成城中学校(52名)
【高等学校】	恵泉女学園中学・高等学校(17名)・福岡県立小倉商業高等学校(43名)・明治大学付属明治高等学校(160名)
【大学・大学院】	明治大学　総合講座「日本近代史と明治大学」(26名)・共立女子大学(12名)・第16回明治大学児童厚生員ジャンボリー(明治大学社会教育主事課程)(116名)・明治大学政治経済学部　渡ゼミ(18名)・学校法人深堀学園　外語ビジネス専門学校(23名)・共立国際交流奨学財団(16名)・駿台外語綜合学院(16名)

2007年度前半期の博物館友の会活動から

博物館
友の会から

考古学博物館友の会から博物館友の会として再スタートし、4年目を迎えることになります。この3年間、新しい博物館の活動に対応した友の会活動を目指して活動分野の拡大を図ってきました。今年度も博物館の活動により密着し、会員の学習をより効果的にして満足してもらえる活動を目指しております。

考古学博物館以来恒例になっております「講演会　日本考古学2007」が4月14日（土）に開催されます。今年は文学部石川日出志教授による、「小林三郎先生の考古学をたどる」の他、安蒜政雄教授、阿部芳郎教授、高瀬克範首都大学東京助手など、主に考古学研究室の先生方に、旧石器時代から弥生時代までの最近の研究状況についてお話し頂くことになっています。

そして、5月の定例友の会総会（5月13日（日））の特別記念講演会は、明治大学OBで千葉市の加曽利貝塚の発掘調査を行われ、加曽利貝塚博物館館長、創価大学教授として活躍された後藤和民氏に貝塚研究についてお話頂きます。今年は大森貝塚の調査から130年と貝塚が何かと話題となっており、興味深いお話が伺えるものと思います。

また、博物館で5月19日（土）から開催される特別展「ガウランド　日本考古学の父」に合わせて、ガウランドが実際に調査したり、研究した古墳である群馬県前橋市の二子塚古墳、伊勢崎市のお冨士山古墳等の見学会を開催します。昨年の特別展「掘り出された＜子ども＞の歴史」に伴う見学会で同行頂き大変好評だった、博物館の忽那学芸員の案内で今回も行います。特別展の展示を見て、さらにその展示物のゆかりの地を見て一層、理解を深めることができるでしょう。その他、夏休みの黒曜石研究センターの見学会も新たな企画を取り入れ、より充実した見学会にと計画しています。また、秋には八丈島の自然と遺跡などの見学会も予定しています。

今年の前半の主な活動を紹介しましたが、秋の特別展など年間を通じて博物館で催される行事と連携したいろいろな行事を予定しております。会員の皆さんに博物館を一層身近なものとして親しんでもらえ、そして学習に役立つ友の会を目指しております。そしてそこで学んだことを博物館の活動に活かしてもらいたいと思います。従来から、友の会は図書室の管理や展示解説、特別展における受付等多くの分野でボランティアとして博物館に協力してきました。これからも、その協力を広めて博物館の発展に寄与できることを願っております。多数の方の参加をお待ちしています。

尚、友の会の2007年度行事予定の詳細は、「友の会会報」やミュージアムショップの友の会コーナーの掲示などをご覧下さい。

明治大学博物館友の会　藤野 正治

博物館案内

【開館情報】

開館時間　10:00～16:30（入館16:00まで）

休館日　夏期休業日（8/10～8/16）
冬期休業日（12/26～1/7）
8月の土・日に臨時休館があります。

※開館時間・休館日には変更の場合があります。

観覧料　常設展無料
特別展は有料の場合があります。

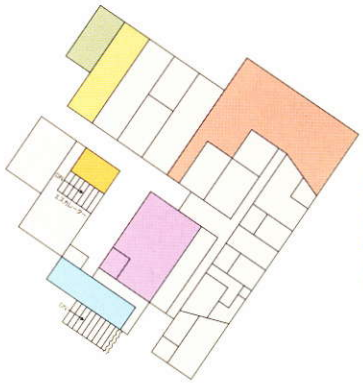
【図書室ご利用案内】

開室時間　月～土　10:00～16:30

閉室日　日曜・祝日・大学が定める休日

※図書室はどなたでもご利用いただけます。
※蔵書は原則閲覧・コピーのみとなりますのでご了承ください。

■交通機関
JR御茶ノ水駅（中央線）から徒歩5分
地下鉄御茶ノ水駅（丸の内線）から徒歩8分
地下鉄新御茶ノ水駅（千代田線）から徒歩8分
地下鉄神保町駅（新宿線・半蔵門線・三田線）から徒歩10分



施設案内（B1）
- 図書室
- 体験学習室
- 博物館教室
- ミュージアム・ショップ
- 特別展示室
- 大学史展示室

編集後記

今号の特集は明治大学博物館初の春季特別展です。デジタルカメラで簡単かつ安価に撮影できる現代とは違い、当時は時間がかかるうえに希少なガラス乾板を用いての撮影でした。写真1枚1枚から、ガウランドの古墳研究に対する熱い思いが伝わってくるようです。その思いと、明治という時代をぜひ会場で感じてください。（け）

MUSEUM EYES ミュージアム・アイズ　Vol. 48　2007 Spring
明治大学博物館　MUSEUM EYES（ミュージアム・アイズ）第48号　〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
【TEL】03-3296-4448 【ホームページ】http://www.meiji.ac.jp/museum/
2007年3月26日発行　＜印刷＞株式会社サンヨー　＜第48号製作スタッフ＞忽那敬三（編集）・横田 潤・佐藤敦子